（1）主題名　公正公平な態度で　〔小学校高４－（３)〕

（2）ねらい　自分の利害や好き嫌いにとらわれず，誰に対しても公正に判断し，公平に接していこうとする態度を育てる。

（3）資料名　「ぼくは後悔しない」（出典：明日をめざして６年　東京書籍）

資料の概要
三郎の組の学級会の議題は７人の運営委員が投票箱を開け，そこに入っている議題の中から決めることになっている。一番多かったのは，新聞係への注文と学級のボールの使い方であった。ところがいつも決まった人だけがボールを使っている中に，仲のよい正夫君が入っていた。自分の１票でどちらの議題になるか決まってしまう。三郎は正夫のことが気になったが，みんなが不満をもっていたボールについての議題を選んだ。

（4）学習指導過程

	学　習　活　動	主な発問と児童の心の動き	留　意　点
導入	1　公正･公平について考える。	○公平ですか。不公平ですか。 ・女の子だからドッジボールに入れないのは・・・ ・車椅子に乗っているからゆるいボールを投げるのは・・・	○本当の公正･公平とはどういうことか，ゲーム的に絵を見せて考えるきっかけにする。
展開	2　資料「ぼくは後悔しない」前半を聞いて話し合う。	○「ボールの使い方」に投票した三郎はどんなことを考えていたでしょうか。 ・自分の決定を間違っていないと思いながらも,正夫のことを考えると心がしずむ ◎下を向いたまま歯をくいしばる正夫を見つめる三郎はどんな気持ちでしたか。（価値観の類型化をする） A　これでよかった B　まよう C　言わなければよかった	○正夫のことが気になっている三郎の気持ちを捉えさせる。 ○価値観の類型化をすることで，自分の考えをはっきりさせる。
	3　資料後半を聞いて話し合い，三郎の気持ちをワークシートに書く。	○正夫に議題のことを話した後,三郎はどんな気持ちになったでしょうか。 ・みんなのことも考えて公平に提案したんだから，これでいいんだ ・正夫はどう思ったかな，でもはっきり自分の気持ちが言えたからよかった	○公正公平な態度で接することができた三郎の気持ちに共感できるようにする。
	4　生活を振り返る。	○今まで迷ったけど正しいことをしてよかったと思うことはありませんか。 ・仲がいい友だちだけでなくいろいろな人に声をかけて係活動をした	○振り返りができにくい場合は普段の児童の様子から気づいたよいところをほめていく。
終末	5　教師の説話を聞く。	○野球の選手のことを話します。 ・そうか，公平に堂々とプレイしているんだな	○今後への意欲をもたせる。

実践報告にみる留意事項

１　資料・題材について

友人関係に敏感であるこの時期に，誰に対しても公平に接していこうとする態度を育てていくのには適した資料である。

児童は主人公になりきって葛藤し，思い悩むであろう。そして，公正公平な態度で臨んだ時，気持ちがすっきりする。本当の人間関係を築くにはどうしたらよいかを気付かせていきたい。

２　指導過程の工夫

導入では，絵を見せてゲーム的に公平か不公平かをとらえさせ，公正・公平の意味を考えるきっかけにした。

また，資料提示をしながら，友情と公正のはざまで悩む三郎の気持ちに共感させることで児童の心に揺さぶりをかけた。

展開前段では，価値観の類型化を行い，ネームプレートを黒板にはらせた。それぞれの立場の思いを話し合い，友だちの意見を聞きながら自分の考えを変えたり，より深めたりしていった。

ワークシートでは，高い価値観にふれた時の気持ちよさやすっきりした気持ちを主人公になりきって味わわせて書くようにした。

３　発問の工夫

価値の類型化をする場面では，高い価値を求めるのではなく本音が語れるようにした。低い価値がでない時は，教師が低い価値を出していくことも児童の心を揺さぶるために必要である。

類型化の場面で「迷う」という意見の児童には迷っている理由を発表させ，どういう理由で迷っているのかを明確にさせた。

４　児童の反応

導入では，「女の子だからドッジボールに入れないのは不公平だ」「車椅子の子に弱い投げ方をするのは公平」などの意見が出て，公正・公平を考えるきっかけとなった。

類型化ではほとんどの児童が「まよう」「言わなければよかった」であった。その理由としては，「友だちにきらわれたくないから」という意見が多く，この時期の児童にとって友だちにどう思われているかが気になっているという本音がわかった。

「まよう」「言わなければよかった」という児童は話合いの中で葛藤しながらも，高い価値観を深めていった。

５　授業後のフォローアップ

学級での集会活動で，みんなのためにどうすればいいかという視点で話し合えるように支援する。

給食当番など普段の活動の中で役割分担を公平に決めているか意識させる。

正しいことを「正しい」と言えるように自分の意思を表現する場面を多くもつようにしたい。

（柿浦小学校）